

校庭の生きもの調べはじめたよ！

志手原放課後子ども教室



校庭に群れるトンボを追いかける

はじめに

志手原校区(三田市)は豊かな自然環境の中にありながら、三田市街と篠山・能勢の各方面をつなぐ交通の要所でもあり、学校の前にも交通量の多い県道68号線(北摂里山街道)が通る。徒歩や自転車での通行が危険な道も多く、低学年の子どもたちは放課後友達の家へ遊びに行くのにも親の車で送迎をしてもらうことがほとんどである。川や池に子どもだけで行くことも禁止されているので子どもたちの遊び場といえば家の周りや公園、学校のグラウンドであり、山で遊んだりするような豊かな遊びの環境は無いに等しい。そこで、現在は放課後、サッカーや鬼ごっこなど広場と同じような“遊び場”として使われている学校を、自然と向き合える遊び場でもあると子どもたちに捉えてもらうため、生き物調べを開始した。

月に1度の活動

試行的に月1回実施。全学年を対象に、金曜の6時間目の時間帯(2時45分～3時半)に行っている。子どもたちが班ごとに外に出て生き物を探す時間は20分程度しかない。探す対象は子どもたちが興味を持ったものなら何でも可。哺乳類のふんや、ガのまゆなども採集対象である。捕まえた生き物はケースに入れて図書室まで持ち帰り、観察をし、名前を調べる。昆虫や抜け殻などは標本にするために保管し、学年末に校内に展示予定。

種類が少ない？

5月～1月に全7回、外での採集を実施した。その中で見つけた生き物の種類は、昆虫50種(チョウ・ガ12種、バッタ12種、甲虫8種、カメムシのなかま8種、トンボのなかま4種、ハチ・アリのなかま3種、ハエのなかま3種)、両生類3種、クモ類3種、ダンゴムシ1種、キノコ2種…である。

	甲虫	チョウ・ガ	ハチ・アリ	ハエのなかま	カメムシのなかま	バッタ	トンボ	その他 両生類など
子ども教室	8	11	3	3	8	12	4	27
夏休み自由研究	24	31	2	0	6	13	11	-

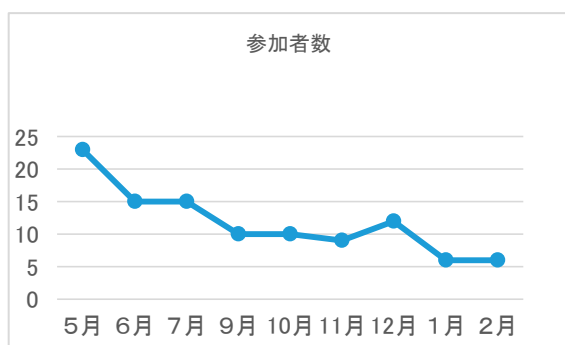
(表1) 採集した生き物の種類数(下段は2年生の自由研究の記録)

2015年の7～8月に有馬富士公園など近隣で昆虫採集をした2年生の自由研究(「家の近所のこん虫しらべ」谷野温)の記録と、今回見つけた昆虫の種類数を比較してみると(図1)子ども教室での記録の方が少ない。自由研究ではチョウ・ガ31種、甲虫24種、トンボ11種と、子ども教室の

ほぼ3倍の種数を採集している類もある。採集の時間が1回20分と短いとはいえ、夏休み期間だけの記録に比べても発見数の少ない、寂しい結果となった。

もう一つの「少ない数」

全校生69名に、生き物探し開始のお知らせを配布した直後の5月には、予想の10人を大きく上回る21人の参加があった。以降、予想どおり徐々に減り、1・2月は最低の6人となった。



生き物を探して、観察しようという大人が決めた枠での活動が学習の時間と似ていて面白くないと思った子もいるであろう。しかし生き物探しは継続的に取り組んでこそ魅力的な遊びとなるのではないだろうか。今後は採集した生き物を標本にするための保管場所を校内に設置するなど、子どもたちが普段から、休み時間などを利用して活動できるよう環境整備に取り組みたい。

5～2月子ども教室参加者数

未来の校庭に夢を抱いて



今年度の活動は、こちらの「してみませんか？」という誘いかけに、子どもたちが「どんなことするの？」と応じてくれた形である。これからは少しずつ、子どもたちが目標を持って自主的に活動する方向にシフトしていきたい。今年度の結果をまとめた後、まずは「どんな生き物が学校に来てほしい？」と子どもたちに投げかけてみた。「クワガタ」「カブトムシ」「オオムラサキ」など、人気の昆虫の名前が飛び出したが、もちろんその昆虫が必要とする環境がどのようなものなのか、子どもたちは詳しくわかっていない。それぞれの生き物が暮らす環境のことを学んでいながら、子どもたちなりの理想の自然環境、そこで遊ぶ自分の姿を、思い描いてほしい。それが子どもたち自らが活動を始める大きな目標になると考えている。

* 県立有馬富士公園を中心に環境保全活動を続ける里山レンジャーさんが、毎月活動に駆けつけてくださり、トラップ作りを指導する等活動を盛り上げてくださいました。改めて感謝申し上げます。